

令和4年度 第3回 昭島市社会教育委員会会議・要点録

開催日時／会 場 令和4年6月23日（木）午後7時00分～8時45分 203会議室+Web会議

出席者 谷部議長、松本副議長、稲垣委員、小原委員、齋藤委員、指田委員、
二ノ宮リム委員、信國委員、吉川委員、吉村委員

事務局 川崎社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

＜配付資料＞

資料1 令和4年度社会教育関係団体登録数について

資料2 昭島の社会教育委員ガイド

資料3 第7回市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議 実施報告

- ・昭島市月間行事予定表（7月）
- ・あきしま公民館だより No.210
- ・昭島市スポーツ推進委員だより 第33号

2 報 告

（1） 令和4年度社会教育関係団体登録数について（資料1）

※事務局より資料の説明

（2） 第7回市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について（6/12）（資料2）

議 長 それでは、アンケートを見ながら参加された委員の方から気づいたことなどお願いしたい。

委 員 久しぶりに対面でできて、よかった。若い世代に感銘を与えることができたというのはうれしく思う。会議の中で印象に残ったのは、ある参加者からただこの場で話して問題点をあげるだけではなくて、それをどう実現可能にするのか、その後の事をしっかりとプロジェクトチームなどで、継続してやっていくべきではないかという意見だ。社会教育委員としては、市民が求めているものに対していかに実現できるかどうかを行政側と話し合っ、て、現実化させていくのが本来の仕事ではないかと思う。市の施設の予約が取りにくいという話もあり、実際そう感じることもある。皆さんから寄せられたアンケートのコメント見ると、大変幅広くいろんな世代の人がこの会議に参加して、自分が知らなかった世界を知る事ができて、かなり高評価いただいている。あきしま会議の存在意義があるとつくづく感じているところだ。

委 員 今回対面でのあきしま会議に初めて参加した。参加された中学生の方が最後に大変勉強になったとおっしゃって、これからまず、団体の中に積極的に入っていきたくと話していた。これを足掛かりに成長され、昭島がより住みよい街になるのではないかと感じた。私のグループでは、自然環境に関するNPOの方と、小学校のPTAの方からご報告いただいた。PTA活動について、我々はいづい弊害や障害、不安なことを先に考えてしまい

がちだが、その方は積極的に、その負の部分よりも大きく正の部分を引き張り出しているように感じていた。PTA の考え方や実践を発表されて、若い会長さんが市内の各 PTA や学校と連絡を取り合い、新しい取り組みをしていると感じた。同時にあきしま会議に参加された 44 名の方々は、年代もふだんの環境も異なり、私のようにリタイアしたシニアも含め、その中で発表者・聞き手ともに真剣に話し合い、次のステップに向けてどうやってこの形を発展させるか、推進していくかという話も出て、第 1 回目からみるとステップアップしてきたのだろうと感じる。あきしま会議がこれからますます充実していけるように少しでも協力させていただきたい。

委員 今回初めて対面で参加した。皆さん目標・目的を持って活動される方々なので、いろんな意見交換ができて、テーマである「市民のニーズを活かす・つなげる」ことは、もうかなり成熟していると感じている。特に最後にいろいろご意見があって今後の展開について、何か形にあるもので残したらいいのではという意見があったのは、素晴らしいかった。それと、あと中学生がしっかりお話されており、自分が中学生のころは大人の前であれだけ話すことはできなかったと思う。中学生もあきしま会議の中で周りのいい雰囲気リラックスできたのではないかなと思う。あきしま会議の今後の展開について、お話していけたらよいと思う。

委員 対面では社会教育委員になってから初めてだが、その前に報告者として参加したことがある。社会教育委員になってからの 2 回はオンラインでの参加だったが、対面とオンラインの違いが顕著に出たと感じた。オンラインも悪くはないが、発言の際ちょっと待つなどの間ができてしまう。対面で相手の表情を見ながら自然と会話が生まれるようだった。うちのグループでは初めての方ばかりだったが、変な言い方だが初めての方ばかりでも不思議なことにいつものあきしま会議になった。初めて顔を合わせたのに、今まであきしま会議に出たことがあるような雰囲気で話をし、サポートしあい、意見を出しあっていた。私はもともとバックグラウンドがカウンセリングなので、すごく興味深かった。若い人たちが大人からアドバイスをもらうだけでなく、若い人たちから逆に大人たちの活動で困っていることについてアイディアを出すなど、相互作用が印象的だった。私たちのグループは、どちらも発足したばかりの団体の報告で、会場の予約のことなど似たような課題があがっていた。異なる理由だけど似たような課題というのが面白いと感じた。先ほども委員からスポーツでも施設の予約が取りにくい現状があるという話があったように、共通している課題が見えてきた。ただ、動いていかなければ変わっていかない。少しずつでも声にしていかなければならないこと。これからどうしていくかということもとても大切だと思うし、あきしま会議に参加して勇気や元気、情報をもらってまた戻ってくるということだけではなくて、あきしま会議の意義として、なにかみんなが共通して持っている問題意識などについて共有してできるようになれば、それをまた会議の中で盛り込んでいければと思う。ただ、参加者を募る際に、あきしま会議のシステムについて、もう少しわかりやすく伝えられるとよいと思う。一度参加してしまえばわかるのだが、何が起ころかっていうのが事前にわかるとよい。

委員 私のグループは、高校生ボランティア（未来守）、子ども会の方や PTA の方など若い子育て世代が中心のグループだった。公園の話などが出たが、若者は公園に制限がつい

て遊びにくいという考えだが、子育て世代は、昭島は水が売りなのに、水と親しめる公園がない。あったとしても水が止められている遊べるところがないという話だった。夏暑期中、涼める場所として水辺が必要だが、多摩川は危険もあり、遊べない。だとしたら公園が必要ではないかという話だった。子育て世代と若者の意見がそこでぐるぐるまわりながら、話し合いになっていった感じ。子ども会というか地域の今まであった既存の団体は消えつつある。継続していくと苦しい状況にあるということで、地域とつながろうと思っても、なかなか地域とつながれない。そうすると、ボランティアの命題ではないが、役職が付くと忙しくなる。役職になりたくないから組織に属さない。子ども会にしてもPTAにしてもだんだんなくなりつつある方向にあるのではと感じた。となると、公が手助けして、なにか新しい形を作っていくことも必要なのではないかな。

話し合いの時の方法だが、私たちのグループでは、対面なので質問は思ったときにしてもらおう方法をとった。これは対面でしかできないことだと思った。後でまとめて質問するよりも、その場で疑問に思ったことを聞ける・答えられるというのは対面でしかできない。その場ですぐ解決する爽快感があって、そこから新しい話が膨らんでいったことを実感した。

委員 高校生ボランティア（未来守）と中高年パソコン同好会の報告だった。未来守の活動に興味を持たれた方が多く、どういう想いでどういった活動かについて質問があった。昭島の課題として具体的に出たのがごみの問題についてだった。前回も未来守の話を聞かせていただいたが、その時の課題が清掃活動に力を入れたいということと、次の代の育成をがんばっていききたいということ話をされていた。1年たってまだまだですとは仰っていたが、解決もされていて、グループとして組織として前に進んでいく力がすごいと思った。もうひとつの中高年パソコン同好会の活動は、これまでのあきしま会議ではこれから活動をどうしていくかどう仲間を増やしていくかという話題が多かったが、この団体は、そのままのメンバーで活動を続けるが、地域にも還元していきたいということだった。具体的には、ほかの団体で資料作りや会計簿などで困っているところがあれば、それを手伝ってあげたい。そういう形で他とつながっていけたらと思っているというお話だった。これまでのあきしま会議でこうしたつながり方を求められたことは初めてで、新しい展開だ。皆さんの活動が続く、活動が発展する中で、他の団体とどうつながりを求めていくかというのは今後も出てくることなので、そういうきっかけづくりを考えていけるといいと思った。

委員 中学生も参加されたということで、何とか小学生も参加できないかと思った。子供たち世代ならではの素朴な希望や意見を出せると思う。そうした素朴な意見が活かされる会議を目指せるとよい。

委員 子どもたちが保護者、学校の先生以外の大人と触れ合う機会がコロナ禍で制限されていたのだと感じた。この2年程狭い世界の中で生きていたのだということを痛感した。保護者でもない先生でもない大人の人たちと話をすることの大きさを感じた。コロナ前には、職場体験や地域の交流があったわけなので、そういういろいろな場面をつくっていったらよいと思った。

委員 私のグループでは中学生の方と、「おむすびころりん」いう活動、地域包括支援セン

ターの活動のお話を聞いた。中学生の方は資料がないにもかかわらず、手元のメモを見ながら発表され、皆さん感銘を受け、激励の言葉をかけていた。ただやっていることを話してくれただけではなくて、具体的にこういう活動をしたいのだからどうしたらいいとか、学校内の活動を社会や地域につなげていくにはどうしたらよいかなどを相談してくれた。その視点が素晴らしく、いろんなアドバイスをもらえていたかと思う。もう1年、生徒会の活動でいろいろなことをやってみたいとのことだった。「おむすびころりん」という活動は、地域の方におむすびを握って配付する事業をフードバンクの支援を受けて毎月行っているというもので、そういった活動を生徒会でできないかというような話も出た。やっているところへ手伝いに来てくださいという声かけもあった。中学生の方は、全体共有の時間でも手を上げてくれた。何でも意見がある人は発言してくださいというときに手をあげて発言してくれて、勉強になったと言っていた。もう一方の方は、この2つの活動について、地域包括支援センターで高齢者の体操教室や高齢者の交流の場をつくっている話と、高齢者の活躍の場とともに多世代の交流の場それからもちろん経済的に困難な方へのフードバンク的な活動をされてきたものをかねてやっておられる。その中で、出てきたのだが、行政とのパートナーシップということだった。団体が求めているようなパートナーシップがなかなかできないとか、自治会や学校・教育委員会とのパートナーシップの面で課題を抱えているということだった。グループの中に市の職員さんがいて、とてもいい機会になったのではないかな。その方からも補助金の情報など提供されてお互いに得るものがあつたのではないかな。最後にホワイトボードに記録しながら皆さんと意見交換をした。先ほど話があつたように、参加者の中からもプロジェクトを立ち上げるのだったらこのあと残ると言ってくれるくらいやる気のある方もいた。あきしま会議もそろそろ7回目も終わったところなので、具体的な取り組みにつなげていくことができたらいと思う。特に情報発信、情報提供など利便性をよくしていくことや、先ほどの行政とのパートナーシップの話は、行政側から見れば現実には難しい面もあるだろうが、それが十分に伝わらない状況があり、対話が起きなければ、要望して思ったような回答が得られず終わりというような状況になってしまっていることもフラストレーションになっているということだったので、交流のしかたを考え、具体的に変えていくことにつなげられるのではないかなと思った。市議会との情報共有やパートナーシップという話も出た。この日も1名参加されていたが、政策や施策に反映させていくには市議会とのパートナーシップということも重要になってくる。また、提案として毎回のあきしま会議の内容や様子を発信していく、配付できるようにすると、様々な人に届くのではないかなというものもあった。

議長 私グループではSEEDという科学遊びの会の方、あきしまアートあそびの会のお話を聞いた。さらに高校生ボランティア（未来守）の方にも発表をしてもらった。全体共有の中であきしま会議に参加して話して、結果を各団体に持ち帰るだけでなく、その後どうするかという問題提起があつたが、これは以前から我々の中でも今後どうしていくか考えていたことで、かなりその方向性が明確になったと思う。また、今年度の都市社連協の統一テーマ、「市民のニーズを活かす・つなげる社会教育～対話からつくろう これからの学び～」まさにこれを体現していると実感を持った。いずれにしても、今後、

提起されたことをいかに具現化していくのか、それが我々の課題になるのではないかと
思う。

委 員 まずは社会教育委員の中でたたき台のようなもの、こんなことに取り組んでみたらど
うかというものを作ったうえで集まってみてはどうか。最後の全体共有で出た4つの項
目のどこを具体化できるかを社会教育委員で出してみてもどうか

委 員 対面もなかなか難しいので、オンラインで何回かやってみるのもいいと思う。それで、
参加された方々にメールこんなこと考えましたということをお伝えしてはどうか。

(3) その他

委 員 小学生国内交流事業運営委員会の報告をする。6月10日に開催され、今年度もオン
ラインで開催するとのことだ。ただ、事務局より来年度以降の事業実施について、引率
する指導員について相談があったので、皆さんのご意見を伺いたい。
(後日取りまとめる)

委 員 健康づくり推進協議会について報告する。6月1日に初めての委員会が2年ぶりに対
面で行われた。いきいき健康フェスティバル・福祉まつりの件について、率直な意見が
出て、今年度は残念ながら中止ということになった。

4 協 議

(1) あきしまの社会教育委員ガイドについて(資料3)

※事務局より資料について説明

議 長 「あきしまの社会教育委員ガイド」は、2年ごとに少しずつ改定され、新しい期の委
員に配られてきたものだが、確かにコロナ禍におけるここ2年でかなり変わってきてい
るところもある。

委 員 社会教育という言葉を残してほしい。学校教育、社会教育、生涯学習がこれから先は
リンクしあっていくものだと思うので、最初のところに入れていただきたい。学校教育
とのリンクみたいなことを入れていただけるとよい。

委 員 社会教育には決まった形ではないということを示して、それぞれの解釈があつてよい
ということを書いてみてもいいのでは。いろいろな考え方や想いがあつて、それでも会
議の中でまとまってやっているということを示せば、いろいろな人が入ってきやすくな
るのではないと思う。

委 員 「はじめに」のところで思ったのは「社会教育は人が社会と関わりを持つ力を身につ
けていく」というところで社会との関わりを持つ力だけではないと思った。人生を切り
拓いていく力、自分の人生を作っていく、自分自身がよりよく生きていくためにもその
力がつながっていくのだらうと考える。あと「システムや手段の構築」というのは、う
まい表現だと思うが、ほかの方に伝わる表現か気になる。

委 員 学ぶ場所が自由に選べる、逆に学ぶ場を提供できるというような言葉を入れたい。

委 員 はじめて社会教育委員になる人がいるので、学校教育と社会教育の違いがわかるよ
うな言葉を入れるとよい。

委 員 今いろんなクラブ活動等を地域の専門の指導者にお願いしようという動きもあり、垣

根を越えようとして変わりつつあることもある。

委員 普段、先生方に、授業で先生が主役になってはいけないと話す。先生はコーディネーターで、子供たちが、うまく自分たちで学びを深めたり広げたりしていけるようにその場や時間をコーディネートするのが先生の役割であるという意味である。同じように、社会教育委員も、社会教育委員が主役で何かをするのではなくて、ほかの人達を巻き込んでいく、そういう役割なのかなと思う。

(2) 建議「対話から地域力を育む社会教育」について

議長 建議については、だいたい4分の3はできあがっているので、あきしま会議の内容をどう入れていくかということになる。アンケート等をよく見ていただいて、我々が実現できそうなことや提案を盛り込んでいきたいので、こちらについてもあきしま会議のアンケートのまとめなどを通してご意見をお願いしたい。次回以降協議する。

次回

7月28日(木) 午後7時より 203 会議室+Web 会議

8月25日(木) 午後7時より 205 会議室+Web 会議